

園だより 10月

おのこの部分は分に応じて働いて体を成長させ、
自ら愛によって造り上げられてゆくのです。
エフェソの信徒への手紙 4章 16節

残暑の厳しい9月が終わりました。台風の影響を受けたり、まだまだ30度越えの日があったりと、子どもたちの遊びが影響を受けるような気候の1ヶ月で有った様に思います。

プールがしまわれ広くなった園庭では、学年入り混じった遊びがあちらこちらで展開されていました。プールによって遮られていた園庭が見渡せるようになると、子どもたち同士ここで繰り広げられている遊びにお互い興味津々。今まで加わっていなかった遊びに自ら加わる姿、加わりたいけれど躊躇する姿、様々な様子が見られました。それぞれの心の動き、行動がどの様に変化していくのか、楽しみに子どもたちの様子を見守っていました。中々「いれて」と言葉にできず、友だちが遊んでいる間近でたたずむ子、遊びをじっと目で追っています。また、すでに遊んでいる友だちのその流れにちょっかいを出し「やめてよ!」「やめろよ!」と言われると嬉しそうに逃げていく、本当はその仲間に入りたい気持ち一杯で、また戻ってきて様子を伺う子。保育者に助けを求め、その支えを勇気に変えて仲間入りを果たす子。もちろん、自分からどんどん加わって行く子どもたちもたくさんいます。

そんな中、前述したように、素直に仲間に加われない様子、もどかしい気持ちなど、様々な子どもたちの心に伸びゆく芽をしっかりと捉えながら、ゆっくりと流れるときの中、それぞれに心を動かしそれぞれのペースで変化していく子どもたちの関わりを、大切な育みのときとして見守りました。一人として同じ変化はありません。様々に想いを巡らせながら、時には諦める様子もありました。それでも数日過ぎると、あら、ちゃんと加わっているではありませんか。全てが順調に、すんなりで行く必要は無いのです。

様々な気持ちを持って心を動かすこと、そこで感じる様々な想い、それを巡らせるゆっくりとしたとき。それこそが子どもたちの小さな心に豊かな育みを成していくのだと思います。

10月も多くの友だち、保育者たち、保護者の皆様、様々な想いが織りなされる中、心地よい秋の風を感じながら子どもたち一人ひとりが様々に心を動かし感じ表現し、伸びやかに成長するひと月にしたいと願います。

園長 駿河 幸子